平成２８年度　第１回　函館市南茅部地域審議会会議録

開催日時	平成２８年７月２８日　木曜日　午後３時００分～午後５時２０分
開催場所	函館市南茅部総合センター　講堂
内　　容	○　報告事項 ⑴　諸般の報告 ⑵　南茅部地域の学校再編について ⑶　函館市地域公共交通再編調査報告書について ⑷　南茅部病院の将来のあり方に関する検討状況について ⑸　史跡垣ノ島遺跡の整備について ○　議　題 ⑴　平成２７年度事業の実績報告について ○　地域振興全般に関する意見交換 ⑴　北海道新幹線開業後の南茅部地域の取り組みについて ○　その他
出席委員	◎熊谷儀一委員　○高谷委員　藤川委員　山下委員 佐々木委員　張磨委員　中村委員　佐藤俊司委員 佐藤幸江委員　工藤委員 （◎：会長　○副会長）　（計１０名）
欠席委員	坂井委員　鎌田委員　熊谷真理子委員　野口委員　坂本委員 （計５名）
事務局の出席者の職 氏 名	南茅部支所長　佐藤友則 同地域振興課長　佐藤安浩 同市民福祉課長　吉田修一 同産業建設課長　川井敏彦 同地域振興課主査　飯田敏次 同地域振興課主任主事　村上周平 南茅部教育事務所長　田名部洋 市立函館南茅部病院事務長　佐藤哲人 企画部計画推進室計画調整課長　三原克幸 同政策推進課長　宿村裕史 同政策推進課主査　江良規生 同計画調整課主事　江藤彰洋 教育委員会生涯学習部文化財課長　蛭子井慶治 同文化財課主査　福田裕二 教育委員会学校教育部長　木村雅彦 同学校再編・計画担当課長　柴田成 同学校教育課主査　橋本透 病院局管理部長　藤田公美 （計１８名）
そ の 他	・報道関係　北海道新聞社　（計１社） ・傍聴者　（計１名）

１　開会	
事務局 （佐藤課長）	ただ今より，平成２８年度第１回函館市南茅部地域審議会を開催する。 開会に当たり，熊谷会長からごあいさつを申し上げる。
２　会長あいさつ	
熊谷会長	皆様には昆布の盛漁期を迎えた忙しい中，また，大雨警報の発令されている中，御出席をいただき御礼申し上げる。 本日の議題は，本地域での平成２７年度事業の実績について，説明を受けるほか，南茅部病院の将来のあり方や学校の再編などについて報告を受けることとしている。 また，前回の地域審議会で私から提案した，北海道新幹線開業後の地域としての取り組みについて，委員の皆様から意見をいただきたいと考えており，普段思っていることを提案していただき，詳細は，次の地域審議会で意見交換や議論をさせていただきたいと考えているので，よろしくお願いする。
３　支所長あいさつ	
佐藤支所長	４月から当支所長に着任した佐藤である。委員の皆様にはさまざまな場面でお会いしているが，改めてよろしくお願いする。 委員の皆様におかれては，時節柄昆布の盛漁期を迎えた大変忙しくお疲れのところ御出席をいただき御礼申し上げる。 また，平素より，当地域の振興はもとより市政全般にわたり御理解と御協力をいただいていることに対し，厚く御礼を申し上げる。 当市では，現在，人口の減少に伴う歳入の減少が長期にわたり続くことが見込まれており何かと皆様には今後も御理解御協力をいただくことが多々あるかと思うが，よろしくお願いする。 本日の会議は，平成２７年度事業の実績報告と，地域としても関心の高い事項である南茅部病院のあり方や小・中学校の再編などについて関係部局から説明があるほか，北海道新幹線開業後の地域の取り組みについての意見交換が予定されているので，委員の皆様には忌憚のない御意見御提言を賜るようお願い申し上げ，ごあいさつとさせていただく。
４　出席委員の報告	
事務局 （佐藤課長）	本日は，出席者１０人，欠席者５人であり，出席者が過半数に達していることから，地域審議会の設置に関する規程第８条第３項の規定により，会議が成立していることを報告する。

５　報告事項

⑴　諸般の報告

熊谷会長　⑴　諸般の報告について，報告をお願いする。

佐藤支所長　報告事項は全部で５点である。

１点目は，合併建設計画の執行状況に関わる答申書の手交式についてである。４月２２日，市役所市長会議室において，東部４地域の各地域審議会正副会長から，市長に対し直接答申書を手渡した。終了後は市長との懇談があり，本地域からは，学校の統合や南茅部病院の問題，さらには地域の産業を活用した地域振興などについて意見交換が行われた。

２点目は，第３１回南かやべひろめ舟祭りについてである。６月１１日，臼尻漁港において開催され，地域の方々をはじめ，多くの方々の御来場をいただいた。入場者数は約８，０００名であった。舟漕ぎ競争や漁火パレードなどの漁港内でのイベントや，市の指定文化財である安浦駒踊りや木直大正神楽などの郷土芸能発表や歌謡ショーなどのさまざまなステージイベントが行われた。また，会場内では，地場産品の宣伝・販売，縄文文化コーナーによる勾玉づくり体験などが行われ，地域活性化の起爆剤としての役割が果たされ，地域の魅力を改めて発信できたものと思っている。委員の皆様の中にも当日御協力をいただいた方もおり，この場をお借りし，改めて厚く御礼を申し上げる。なお，漁火パレードの行燈船の飾り付けに使用した大漁旗や提灯については，東京にある結婚式場の「目黒雅叙園」において，７月１日から８月２８日まで開催されている「和のあかり展」に貸し出しされ，東京で行燈船が再現されており，首都圏において当地域のＰＲが図られているところである。

３点目は，６月１６日に内浦湾を震源として発生した震度６弱の地震についてである。この日の午後２時２１分に地震が発生し，本市においては，記録がある１９２３年以来，最大の震度を記録したところであるが，幸いにも震度の割に被害は少なく，公共施設での被害としては，支所の窓ガラスの破損や臼尻小学校でのガラスの破損や地割れがあったほか，人的な被害としては，特別養護老人ホームみなみかやべ荘で，天井から落ちてきた空調の部品が入居者の方の頭に当たり，けがをされたが，軽症で済んだとのことである。翌日１７日には工藤市長が臼尻小学校，みなみかやべ荘，南かやべ漁協などを訪問し，御見舞いや被害状況を視察されたところである。また，２６日には高橋北海道知事が臼尻小学校とみなみかやべ荘を訪問された。

４点目は，平成２８年第２回市議会定例会についてである。６月１３日から６月２３日までを会期として開催され，一般質問では１６人の議員から質問があった。南茅部地域に関連する項目としては，当地域の遠山議員から，東部地域の観光振興にかかわって，東部地域の観光地としての魅力や可能性についての市の認識，合併以前に旧４町村が取り組んでいた，温泉を核とし

	た観光ルートづくりなどの事業の必要性などのほか，縄文遺跡群の世界遺産登録にかかわって，民間企業との連携や協力体制の必要性，世界遺産登録による経済波及効果について質問があった。 ５点目は，南茅部地域の小・中学校の再編についてである。この後，教育委員会から報告があるが，新聞報道にもあったとおり，尾札部中学校と臼尻中学校の統合について，７月６日に学校教育審議会から教育委員会に対して答申があった。また，磨光小学校，臼尻小学校および大船小学校の再編についても，７月１３日開催の学校教育審議会に対して諮問がされたところである。 以上で，諸般の報告を終了する。
熊谷会長	質問や意見などはあるか。 （なし）

⑵　南茅部地域の学校再編について

熊谷会長	⑵　南茅部地域の学校再編について，報告をお願いする。
教育委員会 （木村部長）	南茅部地区には小学校３校，中学校２校，高校があり，各学校長から教育活動の様子を聞いており，１学期が無事終了したとの報告を受けたところである。また，昨日，教育委員会主催で渡島管内の先生２００人を対象に，駅前のロワジールホテルで教育フォーラムを行った。その中で，尾札部中学校の３年生の代表７名が昆布学習の成果を発表し，大喝采を受けた。保護者や地域の方々の協力や教育力があって，あのような活動に結び付いていると思ったところである。 先ほどの支所長の報告にもあったとおり，南茅部地域の小学校３校の再編について諮問したところである。これから実際に，地域の方々の話を聞きながら詳細を詰めていくこととなるが，私たちは南茅部地域の子供たちにとって，より豊かな学びを提供したいという願いを持って慎重に進めていきたいと考えているので，皆様の御理解と御協力を賜りたいと思っている。
教育委員会 （柴田課長）	本市の小・中学生の児童・生徒数は，約３０年間でおよそ３分の１に減少している状況である。教育委員会では少子化に対応した活力ある学校づくりに向け，より多様な教育活動を展開でき，また豊かな人間関係を築き，社会性をより身に付けるために，平成２１年に基本指針を定め，望ましい学校規模の目安を小学校は１学年２学級以上，中学校は１学年３学級以上として再編を進めきたところである。 ２ページの四角で囲った部分が再編の考え方である。学校の再編によりクラブ活動や運動会，文化祭，グループ指導等の幅が広がり，切磋琢磨できる

	教育活動の充実のほか，男女の偏りや免許外指導の解消などの効果が期待される。本地域については，学校教育審議会から答申があり，平成２７年７月に尾札部，臼尻両中学校をはじめ，磨光，臼尻および大船小学校のＰＴＡの連名による，統合にむけた要望書の提出があったところである。学校教育審議会による検討の結果，両校の統合が必要であるとの結論に至り，学校の位置については，両校の中間点付近が望ましいものと考えるとのことである。 付帯事項として， ①　保護者や地域住民からの早期実施についての要望があることから，その実現に向けて努力すること。 ②　通学支援について実施すること。 ③　両校の交流活動を通じて不安の解消に努めること。 ④　統合校の施設について快適，安全かつ多様な学習展開を可能とする教育環境となるように努めること。 の４点が付けられ，答申をいただいたところである。 また，先日の報道にもあったとおり，７月１３日の学校教育審議会に今後の市内の学校の再編案について，３ページの別表のとおり，一括して諮問したところである。東部地区については，別表の第７グループに記載されている。学校再編は，新しい学校をみんなでつくりあげていくという概念で，これまで以上に広い地域のさまざまな人材，風土，文化などいろいろな面で，より多くの保護者や地域の方々が積極的に学校にかかわっていただくことで，子供たちと学校を支えていくことが大切だと考えているので，皆様の御理解御協力を賜るようよろしくお願いする。 ４ページは，再編の流れについてである。１番は学校教育審議会の答申までの基本的な流れとなっている。答申後の流れについては，２番は教育委員会がその後行う主な流れについて記載している。保護者や学校関係者からの御意見を伺ってまいりたいと考えている。 最後の５ページについては，当該地域の学級数と児童数の推移である。 以上で説明とさせていただく。
熊谷会長	質問や意見などはあるか。
高谷委員	統合準備委員会の設置は２年間とあるが，これは全部の検討が終わってから，新校舎なり別の施設を使うという話が始まるということになるのか。
教育委員会 （柴田課長）	それまでに市教委でも，予算関係や関係機関との協議等が始まっているが，統合準備委員会については，３校の教員やＰＴＡの役員，学校評議員などで構成する準備委員会をつくり，新学校の校名や校歌，教育課程や修学旅行の場所など，細かなことを準備構成させるように会議で決めていただくということで，今までであれば通常２年間くらいはかかっているという一般的

	な流れを記載させていただいたところである。
熊谷会長	前回も報告があったと思うが，ＰＴＡ関係者から要望が出されていることでの再編である。私たちがこの件についてよいとか悪いとかというものではなく，より早く，よりよい方向に再編されるべく皆さんから意見があれば頂戴したいと思うがいかがか。 （異議）
熊谷会長	今後また報告があると思うので，その時に皆さんと気付いた点について進めていければと思っている。 （教育委員会学校教育部退席）

⑶　函館市地域公共交通再編調査報告書について

熊谷会長	⑶　函館市地域公共交通再編調査報告書について，報告をお願いする。
企画部 （宿村課長）	資料２であるが，本年５月に函館市内における生活交通の確保方策等について検討するための組織である，函館市生活交通協議会が取りまとめた「函館市地域公共交通再編調査報告書」の中で，東部地区におけるバス路線の再編の概要が示されたので，その内容について御報告させていただく。 １ページであるが，本調査報告書を取りまとめるに至った経緯を示してある。函館市生活交通協議会では，公共交通の現状や課題解決に向けた検討の方向性などについて議論を重ね，平成２６年２月に「函館市における公共交通のあり方検討報告書」を取りまとめて以来，誰もがわかりやすく便利で利用しやすいバス路線網の再編等について検討を進めてきたところであり，このたび平成２７年度に函館市が策定した「函館市地域公共交通網形成計画」に位置づけられた再編事業について，バス路線網の再編案の検討や料金体系の検討，それから交通拠点整備が想定される場所の詳細調査などを実施し，本調査報告書に取りまとめたものを示している。 ２ページおよび３ページは，調査の目的と位置づけを示しており，「函館市地域公共交通網形成計画」との関係や実施事業の調査内容の関連性などを示している。 ４ページからが東部地区におけるバス路線再編の概要となる。東部地区の公共交通の見直しについては，これまで「函館市地域公共交通網形成計画」や「函館市生活交通ネットワーク計画」において，見直しの方向性や再編案の実現化に向けた検討を行い，アおよびイに，それぞれの計画の位置づけを記載しているところである。 ５ページは，ウとして東部地区におけるバス路線の状況を示している。東

	部地区におけるバス路線は，平均乗車密度が低く慢性的な赤字路線となっており，国や道，市からの補助金が投入されているが，交通事業者の企業努力だけでは収支の改善が困難な状況にある。また東部地区のバス路線はバスの走行距離が長いということで，距離制運賃を採用しており，必然的に運賃が高額となり，利用者にとっては運賃負担が大きくなってしまっている状況にある。現在，東部地区を運行する路線バスについては下図に示したとおり，１０路線が同一の路線で重複するような形で運行されている。中でも路線８の南茅部・古部間，路線９の日ノ浜団地・椴法華支所前，路線１０の日ノ浜団地から恵山御崎の３路線については，平均乗車密度が５人未満の路線で，早急に必要な改善を行う必要があるという位置付けとなっている。 　８ページであるが，エとして東部地区におけるバス路線網再編案のイメージ図を示している。これまでの検討状況や現在のバス路線の状況を踏まえ，先ほどの改善計画対象路線を補完するバス路線ネットワークを構築するため，これまでの１０路線を３路線に集約し，誰にでもわかりやすく，効率的なバスの運行体制を図っていってはどうかということを示している。 　ただし，路線数を１０から３に減らしたからバスの運行本数も減らすというものではない。具体的なバスの運行本数等については，今後バス事業者である函館バスや地域の皆様と協議をしながら決めていくことになるが，現状より不便をかけるようなことにならないようにしていきたいと考えている。 　なお路線の見直し時期については，旧市内のバス路線の見直し時期を平成３２年頃から段階的に進めていくことと考えているが，東部地区においては，地域の皆様との協議が整えば，平成３２年よりも早い時期での見直しも可能と考えている。今後この再編案を基に検討を進めたいと考えているが，地域関係者の皆様とも十分に協議の上，慎重に進めたいと考えているので，御理解と御協力をお願いしたい。
熊谷会長	過去にもバス路線については出ていたことと思う。質問や意見などはあるか。 　（なし）
熊谷会長	皆さんの中でバスを利用している人はほとんどいなく，自家用車を利用するため，不便を感じていないのかと思う。 　乗客が少ないのに大きいバスが走っていてどうかと前から思っていた。この頃は２５人か３０人乗りくらいのバスが走っており，大型バスが走っているイメージから見ると，違和感がいくらかでも解消されたと思っている。函館バスの意向でそうなったのか，今後もそういう方向で路線バスを走らせるということなのか。

企画部 （宿村課長）	函館バスが運行しているので詳しい話まではいかないが，乗車人数等もあり，大きなバスを走らせても効率が悪いということもあるので，規模にあった大きさのバスをバス会社で考えながら走らせているというふうに聞いている。函館バスでもバスを順次入れ替える作業をしているので，大きなバスよりも中型もしくは小型のバスを走らせたほうが効率的であるということであれば，そういうバスを今後導入していくというふうには聞いている。
熊谷会長	先ほどの小・中学校の関係で，スクールバスなども必要となってくると思っている。一般国道２７８号よりも，バイパス沿いを走るバスが必要と思う。将来的なことなので，今答えられないと思うが，その時に地域審議会が存続しているとすれば，地域の意見を聞くために，その辺の方向付けされたものを提出されるという考え方でよいか。
企画部 （宿村課長）	今回は，生活交通協議会からこういう案で進めたらどうかという話が市にあったということで，御報告させていただいた。これから具体的な検討を進める中で，地域の皆様の御意見をいただきながら検討を進めたいと考えており，案が固まってきた段階で，御説明させていただきたいと考えている。
熊谷会長	資料の６ページでは南茅部地域のバスの停留所が記載されているが，鹿部方面の資料は付いていないのか。
企画部 （宿村課長）	今回６ページと７ページに示したのは，平均乗車密度が少ないところの路線だけを載せている。この３路線については，乗っている人の数が少なく，早急に改善をしていかなければならない路線として位置づけられている。こういう路線に，より多くの人に乗っていただくために，新たにバス路線を引くことによって改善できないかというような検討をこれからしていきたいと考えている。
熊谷会長	バスの乗車率が悪いということについて，乗りたいというようなバスのデザインは考えられないのか。自分の車を放っておいてもいいから乗りたくなるという考え方も必要でないかと思う。 過去に停留所が尾札部地域で磨光小学校前だけだったところに，磨光という停留所が１つ増えた。高齢化により停留所までお年寄りたちが歩いて行くのが大変だということで函館バスが増やしてくれた。けれども現在そこで乗り降りする人がいなくなってしまい，ゼロに近いくらいの乗車率だと思う。せっかく増やしていただいたものが，乗車率が悪くなり，利用されなくなったということになると，また見直していかなければならない。 地域の人たちについては，せっかくできたものだから，なくしたら困るという思いもある。その辺を函館バスなりどう考えるのか，もう少し地域と詰

	めてもらえればという思いがある。過疎化になってバス路線をどうするかというこの基本的な考えがここに載っているが，今後のことについてはまだまだ議論する余地があると思う。 　乗車率が多くなっているとか，人口が増えているなどの理由でここにバス停を作ってほしいという所があれば，今お願いした方がいいのでないか。
佐々木委員	私は料金のことがとても気になる。ここから市内の駅まで行くと，大人が片道１，５００円くらいかかるので高いと思う。その設定は距離でこうなるのか。
企画部 （宿村課長）	今のバス料金の設定は，距離が延びるほど料金が高くなっていくという設定をしているが，バス路線の再編案の中で，旧市内から東部地区に来る方の料金が高いということが１つの課題として挙がっている。料金をなるべく安くするとか，軽減できるような方策も一緒に考えながら，この路線の再編というのを考えていきたいと思う。今具体的にどこまで下げられるか，どういうふうになるということはお示しできないが，なるべく軽減できるように検討を進めていきたいと思っている。
熊谷会長	新聞等に載っていたが，陣川あさひ町会のバスが国土交通大臣から表彰されることとなった。地域のコミュニティバスというとらえ方である。東部４地域のコミュニティバスみたいな考え方で，南茅部地域については東部４地域を行き来するという人はほとんどいない。旧市内の病院に行く人が多く，自家用車に頼れない人たちが利用する。重点的に南茅部として考えてくれということではなくて，４地域を走らせるのは必要ないということで，旧市内に買い物や病院に行く人たちの利便性を図るための，コミュニティバスなら路線バスが減便されたとしても，いくらかでもプラスになるのではないか。民間の力を借りるのも１つの方法と思う。 　通院の送迎については，社会福祉協議会でもやっているが，利用者が限定されるので，不特定多数の人に利用してもらうような，退職者等で協力していただける方がいれば，声かけして協力してもらう方法もある。そういう思いもあるので前向きに検討していただければと思う。これは意見として聞いてほしい。 　ほかに質問や意見などはあるか。 　（なし）
熊谷会長	次に，過疎地域自立促進市町村計画について説明をお願いする。
企画部	昨年１０月開催の地域審議会において，この計画について少し御説明させ

（三原課長）	ていただいたが，これまでの計画が平成２７年度末で終了となった。法律に基づいた計画であるが，その法律が時限立法で５年延長されたことから，改めて平成２８年度から平成３２年度までの５カ年についての計画を策定したところである。この計画については，昨年１２月にパブリックコメントを実施し，本年３月の市議会で議決をいただいたところである。計画に載っているもの全てで活用するわけではないが，過疎債を活用できるように，さまざまな事業をこの計画に網羅している。 今後の５カ年はこの計画に従って，さまざまな事業に取り組んでいきたいと考えているので，引き続き皆様にも地域振興の発展に向けた取り組みに御協力御理解いただきたいということで御説明させていただいた。
熊谷会長	資料は事前配付ではないので，今意見をもらうものではなく，見ていただいた後，質問があれば次回の地域審議会で受けたいと考えている。 （企画部退席）

⑷　南茅部病院の将来のあり方の検討状況について

熊谷会長	南茅部病院のあり方について，なかなか進んでいない部分もあるが，前回の地域審議会から今日までの経過と今後の方向について，報告をお願いする。
病院局 （藤田部長）	南茅部病院の将来のあり方に関する検討状況については，前回の地域審議会において，次回地域審議会で資料を提出し，意見を伺うということで話していたが，なかなか資料を示すことができない状況である。現在作業を進めているが，市立３病院の４月から６月の第１四半期の経営状況が大変厳しく，当初の見込みを大きく下回る状況にあり，それぞれの病院ではなく，３病院を合わせた病院事業の今後のあり方そのものについて，市の財政当局ともいろいろと話をさせていただいているところである。南茅部病院や恵山病院の状況もさることながら，函館病院の状況が非常に厳しいということで，今の状況が続くと，病院事業そのものの存続自体が問われるというくらい厳しい状況にある。何らかの対応策を模索しているところであるが，具体的な数字をお示しして御意見を伺える状況にないということで誠に申し訳ないと思っている。 ２月に南茅部地域からいただいた，市立函館南茅部病院の将来のあり方に関する要望書では，救急体制の維持，３５床から４０床の病床の病院，整形外科医の確保といった，大きく３点の要望をいただいており，こうした趣旨も踏まえ検討作業は鋭意進めているところである。今後，皆様から御意見を伺う段階になったら，地域において御意見をお伺いしようと考えている。 この件に関しては，支所長の報告にもあったが，４月２２日に各地域審議

	会の正副会長が市役所市長会議室で，市長に合併建設計画の執行状況に関する答申書の手交式後の懇談の場において，熊谷会長から，この地域が抱える大きな問題の１つとして病院のことがあるという御発言をいただき，それを受けて市長から，病院の問題については今病院局に検討させている。どういう形であれ医療機能は残すということでお互いに了解して進めている，規模の問題や介護施設との連携という問題は今後整理していくが，めちゃくちゃな方向にはならないと思うという話をしたところである。ハードの整備だけでなく，市長からも医者の確保が今の時代大変大きな問題になっているので，その辺をしっかり考えていかなければならないというような思いがあることや，昔と状況が変わってきているというような話をさせていただいたところである。 　前回申し上げたとおり，平成２８年度中には新しい病院改革プランを策定し，総務省に提出をしなければならないということになっており，その中には，北海道が９月にパブリックコメントを予定している北海道地域医療構想を踏まえ，市立３病院の地域における果たすべき役割と今後のあり方を盛り込まなければならないということになっている。この地域医療構想は，北海道で夏にはパブリックコメントを実施するという計画を示していたが，作業が遅れており，９月にパブリックコメント，９月１０日に渡島・檜山管内を対象とした地域住民への説明会を開催すると聞いている。 　これとの整合性を図るという意味から，まず９月が１つの目途と考えており，これを受け来年３月に成案化させるということを考えると，改革プランの案については，遅くても年内に策定をし，年明け後パブリックコメントを実施し，３月に成案化するという流れになると考えている。９月か１０月には地域に御説明し，御意見を伺いたいと考えている。 　次回の地域審議会は１０月下旬頃の開催と思うが，タイミングが地域審議会に合えばよいが，もし遅いということであれば，その前に何らかの形で皆様にお集まりいただき，説明し御意見を伺うという場を設定することを考えなければならないと思っており，熊谷会長，佐藤支所長と御相談させていただきながら最終的に詰めさせていただきたいと考えている。熊谷会長をはじめ地域審議会委員の皆様には，再三にわたり話が延びて申し訳ないが，御理解をいただき，今後ともよろしくお願いしたいと考えている。 　話は変わるが，５月１０日に南茅部病院の運営に関して，地域住民との懇談会を開催し，いろいろな御意見をいただいた。それらの意見については，南茅部病院でできるものから対応させていただくこととしている。今後ともいろいろな場面を通じ，南茅部病院の運営に関して，御意見をいただきたいと考えているので，今後ともよろしくお願いをしたいと考えている。
熊谷会長	質問や意見などはあるか。

藤川委員	以前の南茅部病院も黒字ばかりでなく，その度に一般会計から繰り入れして運営していた状況だと思う。新聞紙上で，函館市の財政も以前から見ると，かなり黒字化されて職員の雇用も増やしていくということも出ていた。 病院の黒字化は難しいと思う。そうした中で，函館市はどうして一般会計から病院事業に繰り入れできないのか。何か弊害があるのか。
病院局 （藤田部長）	今までも病院には一定のルールの下繰り入れをしてきており，そのほかにも赤字額が増えてくると，赤字補填ということで，その解消のために繰り入れを行ってきたところである。南茅部町の時には，毎年１億円くらいの赤字額が出れば，町で補填するということで運営してきたが，函館市の場合は，財政が多少厳しくても必要な時には繰り入れはしてきたところである。赤字額が医療収入の１０％を超えると，次の年に地方債を起こし医療機械を整備することを国が認めないということになることから，１０％を超えないように繰り入れするということで今まで財政運営をしてきたところである。今回は平成２７年度の赤字が大きかったことから１０％を超えたまま繰り入れはしない形となっている。
熊谷会長	函館病院，恵山病院が大幅な赤字であるという話が大きくなりすぎ，南茅部病院が後回しになってしまった感じであるが，市長も約束しており，高台移転も決まっている。地域審議会委員の皆さんから意見をいただきながら，次回地域審議会前に開催する地域での懇談会については，佐藤支所長とも相談しながら，今後進めていきたいと思っている。地域審議会の皆さんには，出席をしていただきたいと思っているので，協力をお願いする。
工藤委員	なぜ赤字になるのか内部で協議されるのか。また，赤字にならないように患者を増やす対策はないのか。
病院局 （藤田部長）	いろいろ分析や対応もしているが，４月から６月の函館市内の患者数はそんなに増えていない状況であり，また救急の患者もほとんど変わっていない状況である。函館病院は三次救急を担っていることから，心肺停止の状態で心臓も肺も止まっている患者がまっすぐ入ってくるが，これまでは，それに加えて他の二次輪番病院の受け入れが難しいような二次の患者も函館病院にきていたわけであるが，最近は，そういう患者も二次輪番病院が受け入れている。以前に比べて受け入れがスムーズになっているということもあり，函館病院の救急患者数が頭打ちになっている要因の１つと思っている。
藤川委員	救急車は市の消防から出動するのであれば，すべて函館病院に搬送するということにはならないのか。

病院局 （藤田部長）	函館市の場合は，救急は当番制にしており，複数病院で割り振りしながら体制をとっている。それが二次救急である。心肺停止のような三次救急になるとまっすぐ函館病院に搬送されてくる形になっている。消防ではその日の当番病院にまず搬送することになる。
熊谷会長	ほかに質問や意見はあるか。 （なし） （病院局退席）

⑸　史跡垣ノ島遺跡の整備について

熊谷会長	⑸　史跡垣ノ島遺跡の整備について，報告をお願いする。
教育委員会 （蛭子井課長）	報告の前に，まず，先日の新聞報道等で御存じと思うが，垣ノ島遺跡と大船遺跡が構成資産となっている世界遺産について，今年も国内推薦を得ることができなかったところである。推薦を得たのが「長崎の教会群とキリスト教関連遺産群」ということで，これからイコモスの審査を受け，後々登録になっていくこととなる。引き続き地域の皆様の協力をいただきながら，世界遺産登録に向けて頑張っていきたいと思っている。 資料の３を御覧いただきたい。世界遺産登録を目指している構成資産の１つである史跡垣ノ島遺跡の保存整備である。現在垣ノ島遺跡については，通常見学はできないものである。今年度もトレンチ（穴）を掘って地中の状態を確認し，特に「盛土遺構」と呼ばれている，コの字形に土を盛った大きな造形物があり，それの本来の形を確認調査するということで取り組んでいるところである。今年度中に，垣ノ島遺跡の本質的な価値を含め，各専門の先生たちの評価をいただきながら総括報告書をまとめることになっている。来年度から具体的な整備に入るが，その基本計画を策定中である。資料の１で基本理念について大きく３つ掲げている。「本質的価値を構成する遺構の確実な保存と価値の顕在化」，「自然と共生しながら長期間にわたる定住を支えた環境の保全と再生」，「ひとづくり，まちづくりの拠点の形成」である。資料の２にそれを受けた基本方針は，「史跡の本質的価値を伝え継続的な保存と活用を図る」，「良好な周辺環境との調和をめざす」，「市民遺産として地域に根付いた史跡をめざす」，「ネットワークの構築と地域のシンボル的な空間をめざす」という４つを記載している。右の方に囲みで基本理念と基本方針の相関関係を表している。 ３をとばし，４は整備内容およびスケジュールになっている。具体的な整備に向けて，これから基本計画を取りまとめ，基本設計に入るが，資料右側に３つの項目を挙げており，「史跡を早期に公開できる環境を整えることを

	第一義とした整備とする」，「遺構の保存に万全を期すとともに，大規模な盛土遺構や竪穴住居跡の凹みなどの遺構について現地形をできるだけ活かした整備とする」，「今後の調査・研究で得られる成果を活かすため，継続性と可変性に対応できる基盤整備とする」を大きな考え方としている。 　具体的な整備としては，３の整備予想図を御覧いただきたい。下の図面の左側バイパスの横に縄文文化交流センターとあるが，そこから下の市街地に向かって下るような形で遺跡がある。縄文文化交流センターの下に，赤い点線でゲートとあり，エントランスＡ２と書いている。ここを基本の入り口と考えており，ここから点線に沿って遊歩道を整備し，「体験・広場ゾーン」として，イベントができる広場の整備，次に「竪穴住居群ゾーン」ということで，ここは大船遺跡のような復元をするということではなく，今でも見ただけで当時の凹みがわかるような状態になっているので，遊歩道を歩きながら見学できるような整備を考えている。竪穴住居群ゾーンの上にもう１つの入り口を設置し，下からの市道を通り，ここに一部車を止め，例えば障害者の方や車いすの方が乗り降りできるような環境を整えたいと考えている。 　次に，管理棟を兼ねた休養便益施設としてのトイレを作りたいと考えている。一番奥には「盛土遺構ゾーン」としており，ここは今も発掘調査をしているが，まだ遺構全体の数％しか調査をしていない。ここで発掘調査は一旦ストップして遺跡を守るという観点から整備に移っていくことになる。盛土遺構が完成した縄文時代の最後の頃をイメージできるように，当時は生えていなかったような樹木や草花や，盛土遺構の上には後世に積まれた土もあるので，それらを除去しながら当時の形をできるだけ復元することを考えている。当時の深さまで土を除去してしまうと遺構が傷つく恐れがあるので，少し形は膨らむが，当時の盛土の表面を確定したうえで，５０㎝くらい土盛りし，遺構を守りながら皆さんに見学していただけるような整備を目指している。スケジュールとしては，現在，基本計画をまとめている最中であり，最終的に文化庁のオーダーがとれれば成案化となる。一度文化庁調査官の現地視察と計画案を見て指導をいただき，今修正をしている最中である。その後，同時進行となるが，基本設計をし，来年度当初に実施設計ということになる。毎年度実施設計に丸が付いているが，文化庁からの指導であるが，その年度に整備する分の実施設計をして整備し，また次の年度に実施設計をして整備するものである。 　具体的な工事としては，基盤工事を平成２９，３０年度，盛土遺構の地形復元や芝張り工事を平成３０，３１年度，竪穴住居跡の周辺の樹木の伐採などを平成３０年度，案内解説施設（展示解説施設）については，現在の縄文文化交流センターの一画を利用し，ガイダンス機能を持たせたいと考えている。案内板などは最終年度の平成３１年度，それから公開活用施設として，エントランスや体験広場は平成３０年度，園路は平成３０，３１年度で整備をする。平成３１年度には，管理・便益施設として，照明灯やトイレ，水呑

	み場，四阿（あずまや），ベンチ・スツールを各所に設置する。駐車場については，基本的には縄文文化交流センターの道の駅の駐車場を活用することとする。植栽・伐採はこれらの工事に併せ必要なところだけ伐採していく。整備に当たり整備委員会を立ち上げ，委員会を毎年度開催することとする。近々に立ち上げる予定であり，委員構成としては，調査検討委員会から２人，地元の北の縄文クラブの方など，さまざまな専門家や利用する立場の方を含めた形で整備委員会を立ち上げる予定である。整備の最終年度には整備報告書を作成し，当初の整備ということにしたいと考えている。調査について，まだ発掘調査をしていない場所もあり，整備完了後，ソフト的な部分をどうやって盛り込んでいくかということを今後検討しなければならないと考えている。新たなものとしては，今回の整備には入れていないが，配石遺構が出ているので，今後調査を進めて，この整備が終わった後，改めて整備をしたいと考えている。そのほかいろいろと調査を進めていくと，新たな展開があるかもしれないので，それらにも対応できる形で今後の整備を考えていきたいと考えている。 以上，整備の基本的な考え方を御説明したので，よろしくお願いする。
熊谷会長	今の説明では，平成３１年度には縄文文化交流センターと連携のとれた１つの公園になるという捉え方でよいか。
教育委員会 （蛭子井課長）	平成３１年度末に完成して平成３２年度当初の供用開始と考えている。
熊谷会長	質問や意見などはあるか。
藤川委員	説明の中で，大船遺跡のような復元物はつくらないということであったが，なぜ竪穴住居群ゾーンは園路のみの整備なのか。そこにつくれば観光としても大変魅力あるのではないか。
教育委員会 （蛭子井課長）	大船遺跡は竪穴住居の復元という形で整備したが，これまでの調査で竪穴住居などの上物は推定で整備したものである。復元の部分は大船遺跡にまかせることとし，垣ノ島遺跡は後々発掘調査を進めなければならない部分もあることから，地形なりを見ていただき，縄文時代の雰囲気を味わっていただくという形で整備を目指す。保護林は伐採できないが，史跡の中の針葉樹類はできるだけ伐採をし，当時あったであろう樹木を植栽していきたいと考えている。見る立場からも役割分担をしながら大船遺跡と垣ノ島遺跡の両方を見ていただきたい。
藤川委員	せっかく縄文文化交流センターができた中で，来たお客は一度見て，あれだけだったら二度は来ないと思う。こういうものができたら魅力ある縄文文化交流センターになるのではと思う。

教育委員会 （蛭子井課長）	ただ公園的な整備をするのではなく，その後の使い方として，一区画設けて発掘体験などのソフト事業も含め，地元でいろいろな団体を立ち上げているので，協力しながらボランティア的な動きの中でいろいろな使われ方ができるようにしたいと考えている。
熊谷会長	基本的な考え方として，大船遺跡は竪穴住居を復元しメインとしており，垣ノ島遺跡は盛土遺構をメインとして棲み分けをしたということで理解してよいか。
教育委員会 （蛭子井課長）	当時の地形をそのまま感じられるところと，想像でこういう形で人々が住んでいたと感じられるような２パターンの遺跡について，距離も離れていないことからセットで見学していただきたいと思っている。
熊谷会長	セットで見られるだけの余裕のある団体，個人であればいいが，大船遺跡と同じように全部復元するということでなく，藤川委員のような意見もあることから，１つでもいいので，今後整備に当たり竪穴住居の復元を検討していただきたい。
教育委員会 （蛭子井課長）	当初整備はできるだけ早く，見学できる環境を整えるということが大事だと考えているので，仮に，来年世界遺産の国内推薦にということになると，とにかく人が来ると思っている。来年すぐには間に合わないが，直近で平成３１年度末までに見学できる環境をできるだけ早く整えるということがまず大事で，その後の整備の中に，そういう部分をどの程度できるかは今後検討していきたいと思っている。
熊谷会長	地域として一番懸念されるのは，公園化するという青写真ができているが，大船遺跡に重点を置くのか垣ノ島遺跡に重点を置くのかというのは議論の分かれるところで，最終的にどっちつかずになるという心配もある。どちらにも魅力を感じられるような整備が大事だと思う。竪穴住居は垣ノ島遺跡には復元されていないが，大船遺跡には大々的なものがあるので，よろしかったら御案内します，というソフト面での案内も必要であると思うし，それに伴う人員も必要になってくる。その辺が今後の課題だと思うので，今出た意見を参考によい方向に持っていっていただければと思う。 ほかに質問や意見などはあるか。
佐々木委員	過去の地域審議会でも何度か話が出ているが，縄文文化交流センター自体があまり目立たない。ここに縄文文化交流センターがあって，いろいろな体験ができるということが，表や道路を走っているところから見てわかるもの

	を設置する考えはないか。派手なものはあわないと思うが，何か少し寂しいという声が届いていると思う。
教育委員会 （蛭子井課長）	建物がグレーでコンクリート打ちっ放しのような感じである。この場所は世界遺産登録を目指している構成資産の史跡垣ノ島遺跡が隣接している。史跡の区域だけではなく周りの緩衝地帯（バッファゾーン）といわれる区域に入っていることから，国内推薦された後に，イコモス（国際記念物遺跡会議：ユネスコの諮問機関）の方たちが現地調査に訪れることになるが，売りとしている縄文時代の雰囲気とか景色とかを阻害するようなものは駄目ということをにらみつつ，地味な建物となっている。道の駅も併設されているものの，一見道の駅とわからない感じがあるのは，言われたとおりであるが，そういう部分も含め，全体のイメージと縄文時代を感じられる風景とを両立させなければならないので，なかなか宣伝するにしても，あまり華美にはできないというのが１つの問題としてあると思う。
佐々木委員	地域のほとんどの人が，私が言ったように思っているので，そういうことを話していくと地域の人はわかってくれると思う。世界遺産を目指していることから，こういうことができないでいるということを，地域の人たちに周知してほしい。
教育委員会 （蛭子井課長）	これから具体的に国内推薦が見えてくると，土地の利用も含めて，一定程度の制限がかかってくるところもあるので，それらについて地域の方に説明に入らなければならないなと思っている。このようなことを発信していく努力をしなければならないと思っているし，地域審議会の皆さんを含めてそういうところだということを聞かれたら宣伝していただければと思っている。
山下委員	１年ごとに，できたところまで見学者を入れる方法はとれないのか。
教育委員会 （蛭子井課長）	今まだ基本設計をしていないので，どういうふうに地面を掘り返したりするかというのがすっかり決まっていないことから，途中から供用開始できるかどうかはまだ不明である。これからその辺を詰めていくが，樹木を伐採したり，余計な土をよけたりすることから，一部完成してもそこに至る通路ができなければ見られない状況である。今でも視察や遺跡見学会で来られた方には教育委員会の職員（学芸員）がついて，立ち入りしている状況である。できるだけそういうことができればよいが，工事の進捗具合などによって変わってくると思っている。
山下委員	体験・広場ゾーンは，イベントもできるような整備をするとのことだが，

	もし１年ごとにできるのなら，仮定の話だが，例えば地元の商工会とかがそこでイベントを実施し，さらに次の年も継続して行っていくことで，縄文文化交流センターに国宝を見に行く機会になり，来館者は増えると思う。
教育委員会 （蛭子井課長）	この広場は平成３０年度の整備であり，エントランスとそこだけをつなぐということであれば可能かどうかも含めて検討してみたい。また途中まで入れると安全性の問題なども考えなければならないので，今約束はできないが，これから設計を組む中で時期的な配分を検討してみたい。
熊谷会長	今後の調査から始まって完成までの間の進捗状況は，年次ごとにできれば地域審議会に報告いただきたいと思うのでよろしくお願いする。 （教育委員会生涯学習部文化財課退席）
６　議題 ⑴　平成２７年度事業の実績報告について	
熊谷会長	日程６の議題に入る。平成２７年度事業の実績報告についてお願いする。
事務局 （佐藤課長）	資料４の「事業実績一覧」により御説明申し上げる。 １ページであるが，この表は，平成２７年度事業実績総括表で，１の「多様で力強い産業を振興するまちづくり」から，５の「連携と交流によるまちづくり」までの５区分としており，南茅部地域の総合計実績金額は右下に書いてあるが４億８，３３３万５，０００円となっている。 参考までに平成２６年度の実績は１億８，８４２万３，０００円で，平成２７年度は，約２億９，５００万円増えている。増えた理由としては，主に３点あり，「観光の振興」でひろめ荘の改修工事で１，５００万円，「２．安全で快適な生活環境を充実するまちづくり」の，⑸「生活環境の整備充実」の水道の整備で約１億円，「３．やさしさとぬくもりのあるまちづくり」の，⑸「児童福祉の推進」で，認定こども園の建設で約１億６，６００万円，合計で２億８，０００万円ほどになり，これが増えた主な理由である。 ２ページであるが，項目ごとに，南茅部地域関連分について，御説明申し上げる。１の「多様で力強い産業を振興するまちづくり」の，⑵「水産業の振興」である。１つ目の「漁港の整備」であるが，北海道が行う漁港整備にかかる市の負担金であり，金額は２，８１８万６，０００円であり，平成27年度は，大舟漁港と望路漁港の整備にかかわる負担金となっている。２つ目の「漁場の造成（コンブ・ウニ・ふのり・天然のり）」であるが，漁協が事業主体として行った雑海藻駆除事業に対する市の補助金で，面積は８万１，０００平方メートルを実施し，１，９６０万円を補助している。次に，「ウニ・アワビ種苗等放流」についてであるが，この事業も漁場の造成と同

	様に，漁協が事業主体として行ったもので，ウニ種苗１００万個の放流事業と，ナマコ種苗６万個の放流事業に対し，１，５９０万円を補助している。次に，「漁業用機械等購入資金の融資」である。この事業は，全地域に関係する事業となり,南茅部地域では，１７件に対し，１，８４０万８，０００円の貸し付け実績となっている。次に，「漁業後継者対策」である。これも全地域に関係する事業であり，南茅部地域では，地域リーダー育成研修参加者４人に対し２０万円と，漁業資格取得費補助として，８件で２４万円を補助している。次に，「その他関連事業の推進」である。船揚場の維持補修にかかる補助金で，斜路の改修９カ所と，土砂の除去１２カ所，ブロック移設４カ所の計２５カ所の事業に対し，３８６万４，０００円を補助している。次に，⑶「農林業の振興」である。３つ目の「市有林等の整備」であるが，これは，豊崎町，大船町および岩戸町で，下刈りや殺そ剤の散布などの事業を実施したもので，金額は５５７万円となっている。 　３ページであるが，⑸「観光の振興」である。１つ目の，「観光・宿泊施設の整備」の１，４７２万１，０００円については，ホテルひろめ荘の温泉給排水設備の改修を行ったものである。次に，「各種イベントの支援」の４３０万円については，ひろめ舟祭りに対する開催補助金である。 　４ページであるが，２の「安全で快適な生活環境を充実するまちづくり」である。⑵「消防・防災・生活安全の充実」の２つ目の「各種消防・救急車両の整備」についてである。これは全地域にわたる事業であり，南茅部地域については，南茅部消防団第８分団で小型動力ポンプ付積載車１台を更新したもので，金額は１，６４１万６，０００円となっている。次に，「河川の整備」の３２２万５，０００円については，八木川ほか２河川の堆積土砂除去事業である。次に，「小規模治山事業」の１，０７３万５，０００円については，岩戸町で実施した事業である。次に，⑶「交通・情報ネットワークの形成」についてである。５つ目の「生活路線バスの維持運行」については，全地域にわたる事業で，生活路線バスの維持運行にかかるバス事業者への助成になっている。次に，「その他関連事業の推進」である。これは２つあり，１つは地域福祉バスの運行にかかわる経費で，金額は５７４万 7,000 円であり，もう１つはスクールバスの運行経費１，４６０万４，０００円となっている。 　５ページであるが，⑸「生活環境の整備充実」である。１つ目の「水道の整備」では，古部，木直，尾札部，臼尻，大船の計５カ所の簡易水道の浄水施設の整備であり，金額は４，３６７万５，０００円である。また，臼尻簡易水道での配水管整備で７，１８２万８，０００円，尾札部の簡易水道の漏水調査費で１０６万２，０００円である。次に，「合併処理浄化槽の設置促進」について，全地域にわたる事業であり，合併処理浄化槽の設置補助として，南茅部地域では，４件で，２２５万２，０００円を補助している。次に，「公園・緑地等の整備」について，南茅部斎場の１号炉の内壁の張り替

	え工事を行い，金額は８３万７，０００円である。 ６ページであるが，３「やさしさとぬくもりのあるまちづくり」である。⑴「保健・医療の推進」の２つ目の「各種健康診査の実施」についてである。全地域にわたる事業で，各種がん検診の巡回健康診断などを実施したものである。次に，「医療機器の購入ほか」の３，２１３万８，０００円について，全自動錠剤分包機などの医療機器の更新と，Ｘ線ＣＴ装置などの医療機器のリース料である。次に，⑵「地域福祉の推進」の２つ目の「その他関連事業の推進」について，全地域にわたる事業で，社会福祉協議会への補助金であり，金額７，３３２万６，０００円のうち，同協議会南茅部支所に対しての補助金額は８０６万５，０００円となっている。次に，⑶「高齢者福祉の推進」である。６つ目の「ひとり暮らし高齢者等緊急通報システムの整備」について，これも全地域にわたる事業であり，南茅部地域では７台設置し，平成２８年３月末で８５台の設置となっている。次に，「その他関連事業の推進」の７３７万１，０００円については，高齢者温泉等入浴優待事業で，６５歳以上の方が対象となっており，対象者１，９４２人で１万７，６４４枚の利用があった。次に，⑸「児童福祉の推進」である。１つ目の「保育所の整備」の１億７，０１１万３，０００円について，今年度開設した南かやべ認定こども園の整備にかかる，平成２７年度分の建設費補助金である。 ７ページであるが，４「いきいきと学び地域文化を育むまちづくり」である。⑵「学校教育の充実」の１つ目の「学校施設の整備」について，全地域にわたる事業であるが，南茅部地域としては，大船小学校の校舎耐震改修工事で，金額は３，０１９万７，０００円，次に，臼尻小学校の屋内運動場耐震改修工事で，金額は５，１７３万２，０００円，大船小学校の浄化槽改修工事で，金額は１，７０６万４，０００円であり，３件の合計で９，８９９万３，０００円である。次に，⑷「特色ある地域文化の創造」である。２つ目の「大船遺跡等の保存・整備」の９６０万円について，史跡垣ノ島遺跡整備事業にかかわる発掘調査等の経費である。また，縄文遺跡群世界遺産登録の推進経費として，６２万９，０００円となっている。次に，「その他関連事業の推進」の６５万４，０００円については，臼尻漁港臨港道路等の発掘調査にかかわる，国からの受託事業費である。 ８ページであるが，５「連携と交流によるまちづくり」である。⑴「住民参加の推進」の５つ目の「その他関連事業の推進」であるが，金額５０７万６，０００円については，南茅部支所排水設備の改修工事を実施している。ここは当初予算で計上していなかったことから，既定内予算で執行したために予算額は空欄になっている。次に，金額１，３９０万円についてであるが，木直会館の屋根や外壁の塗装工事などを実施したものである。 説明は以上である。

熊谷会長	質疑に入るが，質問や意見などはあるか。
山下委員	３ページの南茅部地域ではないが，「冬季観光客，修学旅行の誘致ほか」で，予算が７３万７，０００円で，実績は１３万３，０００円とあるが，これは何を実施したのか。函館市は観光に力を入れており７３万円の予算のうち，１３万円しか使っていない。全部使ってもよいのではないかと思う。
事務局 （佐藤課長）	誘致活動でどのように使っていたのか観光部局に確認をする。
熊谷会長	確認して，次回の地域審議会の時に報告いただきたい。予算を全部使わなければならないというものではないが，せっかく付けた予算を，この地域にも使えるのかどうか。全地域で予算を組んでいるものだから限定はしていないと思う。縄文文化交流センターの看板等も含めて，誘致するためには使える予算なのかどうなのかということについて確認をお願いしたい。ほかに質問や意見などはあるか。 （なし）
熊谷会長	水産関係については，毎年同じくらい付けていただいているが，漁協とすればまだ付けてもらいたいということはないか。
中村委員	水産業の振興については，漁港整備以外は要望どおり予算がついており，それに対して感謝申し上げる。今後ともよろしくお願いをしたい。
熊谷会長	水産業の振興の中の漁港の整備で南茅部地域に５，０５６万７，０００円の予算額に対して，実績は２，８００万ほどで，半分程度となっているが，これはどういうことか。
産業建設課 （川井課長）	漁港整備の場合，防波堤は別にして，岸壁や用地新設などを実施するときは，必ず地方自治体の負担金が一部発生することとなる。当初はつかみで予算付けをすることから，北海道の事業の実績が小規模で終わり，事業費が半分になったとすると市の負担金も半分になるということになる。北海道の動向によって変わってくるものである。
熊谷会長	了解した。

7　地域振興全般に関する意見交換

⑴　北海道新幹線開業後の南茅部地域の取り組みについて

熊谷会長	前回の地域審議会で私から御提案申し上げた新幹線開業後の南茅部地域の取り組みについて，冒頭の話と重複するが，今日は皆さんから出た意見につ

	いて詳細の議論をするということではない。皆さんが気の付いたところを出していただき，次回の地域審議会で詳細について議論したいと思っている。 　意見はないか。
藤川委員	ひろめ荘のお客は増えているのか。
産業建設課 （川井課長）	ひろめ荘は，新幹線が開業してから本州方面のお客が，平成２７年度同時期に比べ１５％程度増えていると確認している。
藤川委員	それはレンタカーで来るのか。
産業建設課 （川井課長）	路線バスは使わないと思うので，レンタカーだと思っている。
熊谷会長	ホテル関係では，市内全域で部屋が足りないくらいは増えているみたいであるが，南茅部地域でどういう形で地域外から来る人たちを受け入れたらよいのかなかなか難しい。市の町会連合会で，街なかコンシェルジェということで，観光客が来て道を尋ねたり，いろいろな形でお世話になる方がいたら，何でもお世話できますよという目印となる缶バッチを作成した。南茅部地域でそれをやれるかというとなかなかそういうことにもならないし，地域外から来ていろいろな形でお世話になりたいという方がいたら親切にしてあげるというのが第１番のことで，そうすれば地域のＰＲにもなり，それ以外に，各種団体いろいろあるので大きいことはできないにしても小さいところからこういうことがいいのではとかあれば，そういうことを意見としていただきたいと考えている。次回皆さんと協議したいと考えている。何か意見はないか。
山下委員	仕事がらみで申し訳ないが，うちでは弁当を作っているが，新幹線が走ってから渡島総合振興局から昆布のことでの問い合わせがすごく多い。
熊谷会長	地場産品の昆布を活用しない手はないし，どういうふうに活用したらよいのかというのは，山下委員の述べた食品関係に積極的に使うというのも１つの方法だろうし，１次産業だけでなく６次産業まで漁業関係に求められている。具体的にどうすればいいのか，なかなかわからないところで難しさもある。地場産品の昆布の活用の仕方をどうＰＲしていくか。中学生が修学旅行に持って行って無償で配布したり，結構ＰＲはしてもらっているが，地域の中で生かされていないというのがある。昆布を採っている人たちが食べないということもあるわけだから，これは難しいし食べない人がＰＲしなさいといってもＰＲの仕方もわからない。昆布の活用について意見が出された。

山下委員	商売をやっていて昆布はすごいと思う。
熊谷会長	今，大船の青年部ではホームページを作って自分たちで販路を広げており，ほかの地域でも漁協に出すばかりでなくて，いろいろな業者に販売もしているしＰＲの仕方をいろいろと考えているのもあり，これは本業をどうするかという話である。今，地域審議会で地域外から来る人たちにどう接するかというのが課題であるから，１つとすれば昆布を使ったＰＲ方法と，それ以外に南茅部をどう売り込むかということで皆さんに意見を出していただくということで考えている。 漁協女性部や町内会，商工会といろいろ各種団体があるが，それぞれがどう取り組んでいけばよいのか取っ掛かりがわからない。これが一番難しいところで，わかれば，わりと目の前が明るくなってくるのではないかなと思う。
中村委員	新幹線開業に当たって報道関係者，特に広告会社から４，５件くらい依頼があり，協賛として金額で１万から３万くらいだが，漁協には直販加工センターがあるので，そのＰＲをしている。一部の航空会社は道南地域の北斗から大沼，鹿部の特産物を紹介しているが，なかなか直接連絡も来ない，あまり効果がないという思いがありながらも時間をかけてじっくり考えなければないかなと思っている。一方で，いさりび鉄道が木古内から五稜郭まで開業したが，そちらからは，ながまれ号の中で行うイベントで，お客に直販のさまざまな商品を無料配布したりということで連携を取りながら商品を購入してもらっている。一方では本州から来た大手のお客に対して無料配布すると，どこの昆布かとなり，北海道でも１番いい献上昆布である函館市の南茅部地域のものということで，直販加工センターを運営している漁協と商談をしたいという話になり，そういう意味ではプラスになる。民間の会社がＰＲしてくれて，そのつながりで将来的に効果があるのかなと，そちらの方に向けていったほうがいいのかなという思いはある。
藤川委員	直販加工センターではインターネット販売はしているのか。
中村委員	している。
藤川委員	ネットからの注文は結構あるのか。
中村委員	ある。
熊谷会長	女性部では何か考えていないか。

佐藤幸江委員	考えていない。
熊谷会長	そういう人たちはなかなか来ないし，来れば女性部に地場産品を使って料理を作るということもできるだろうが，素通りが多い。１回ＮＨＫに来てもらいたい。
佐藤幸江委員	そういうのも大事かと思う。
熊谷会長	最終的には地域の中では頼るのは女性部である。最後には女性部にお願いするというのが過去ほとんどそうである。
中村委員	漁協が企画なり案を出して，女性部に協力をお願いするというのが基本で，女性部に何かないかと言っても難しいし，漁協も反省しなければならない部分もある。
熊谷会長	女性部でも年に何回か集まりがあると思うので，地域審議会で話があったので何かいいアイデアはないかと，次回の地域審議会までに聞いてきていただきたい。
佐藤幸江委員	了解した。
熊谷会長	自分の考え方でもいいので，よろしくお願いする。 なかなかこの場でどうかといってもないので，次回までの宿題として，地域を盛り上げるために地域審議会が中心ということではないが，アイデアを出して，協力をしていただける団体やグループにそれを提案して，お願いして盛り上げていければなと思う。そのためには先ほど説明のあった垣ノ島遺跡の公園化，こういうものも１回見学して自分のものにしていかないと，説明もできないし，今後の地域審議会でまた説明があると思うので，ある程度方向付けされた中で見学をお願いしたいと思っているので，全員参加していただきたい。また，宿題として地域振興の関係で皆さんから意見を頂戴するということでこれを閉めたいと思う。
熊谷会長	その他意見はないか。 （なし）
熊谷会長	次回は１０月末を予定しているので，地域の産業も一段落すると思うので，全員の参加をお願いして閉会する。
	（午後５時２０分　閉会）